



加賀獅子頭

歴史と特色

天正11年(1583年)初代藩主前田利家が金沢城に入城した時、お祝いの獅子舞が盛大に行われたと言われ、以後隠れた武芸奨励策としても盛んになり、獅子頭も各町に一基、町の守護として名工を選んで彫刻させ、町会を誇示するものであった。また、個人の家でも男子出生のお祝いとして床の間に飾る風習があり、盛んに作られていた。藩の細工所の彫刻師や仏師等が獅子頭の製作にあたり、武田友月、沢阜忠平、杉井乗運の加賀3名工や大野弁吉等の名工が活躍した。

加賀獅子舞は棒振りか獅子を射とめるという珍しいもので、獅子頭は八方にらみの眼の配り方もすどく、他に比べ大きいのが特色である。

原木は、白山麓の桐を使用している。

歴史與特色

1583年、第一代前田藩主入住金澤城時、舉行了盛大的獅子舞會。此後、獅子舞在祭祀活動中越來越興盛。由於非正式公開的武藝鼓勵政策也開始興起，獅子頭作為各個町會的寶物得到重視。同時，若百姓家有男孩出生也會裝飾其作為慶生吉祥物。加賀獅子頭的特色是眼觀六路八方，大且炯炯有神。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)・白山市(白山市)
主な製品名(主要産品名)	加賀獅子頭(加賀獅子頭)
主な生産者(主要生産者)	知田工房(知田工房) 〒920-2113 白山市八幡町98(白山市八幡町98) TEL (076)272-1696



加賀象嵌

歴史と特色

加賀藩2代藩主前田利長が、京都より後藤琢乘を招き、装剣技術を開発したのが起源と言われ、元禄時代には一般彫金のほか金属象嵌加飾の優れた作品ができていた。金属面の象嵌する紋様部分を0.1ミリ~0.2ミリの深さにタガネで刻り下げ、底部を広げる。そして紋様に別の色の金属をはめ込み上から鎚とタガネで打ちならす。打ち込んだ紋金がアリの部分に延び広がり抜け落ちないように固定される「平象嵌」の技法が特徴である。

藩政時代には、武具を中心に隆盛を極め、特に加賀象嵌鍔[あぶみ]は、天下の名品とされ、幕府諸大名に進献された。明治維新後、絶滅状態になったが、花瓶、香炉等の製造で復活し、戦中戦後の難関を経て、現在では、若手後継者も現れ、復興のきざしもみえている。

歴史與特色

運用了平象嵌技法的加賀象嵌是在第2代藩主的庇護下，作為刀劍等武器用具的裝飾而被發展起來。特別是加賀象嵌的馬鍔，因其優秀聞名天下常進貢給幕府的諸位大名。在現代，花瓶、香爐等的製造中也傳承了這種傳統的技法。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	花瓶、置物、茶道具、装身具(花瓶、陳設品、茶道用具、裝飾品)
主な生産者(主要生産者)	加賀金工作家協会(加賀金工作家協會) 〒920-0942 金沢市小立野5-11-1 金沢美術工芸大学内 (金澤市小立野5-11-1 金澤美術工芸大学内) TEL (076)262-3531 加賀象嵌伝承研究会(加賀象嵌傳承研究會) 〒920-0845 金沢市瓢箪町8-33(金澤市瓢箪町8-33) TEL (076)261-3919

加賀象嵌